

地方競馬競走ガイド

[南関東・ホッカイドウ競馬]



2024年より新たに3歳ダート三冠競走が創設されたことを筆頭に、全国の地方重賞が新たな装いで施行されています。ダート路線の充実を図るべく、NARや全国の各競馬主催者はこれまではなかった高額な奨励金や褒賞金を用意するようになってきました。そんな大変貌を遂げる地方競馬の魅力をお伝えするべく、地方競馬の制度や新しいレース体系をご紹介します。地方競馬をより深く知る参考になさってください。

ダート馬なら地方所属が魅力的

[ダートグレード競走を始めとする上級競走における出走枠の充実]

新設された3歳ダート三冠競走、そして充実したダートグレード競走における地方所属馬のメリットは、十分な出走枠が確保されているという点にあります。とりわけ羽田盃、東京ダービーなど、3歳ダート三冠競走の目玉となるレースの中央所属馬の出走枠は、フルゲート16頭に対してわずか4頭に制限されています(2025年時点)。また、息長く活躍する傾向にあるダート馬ですが、古馬になっても顔触れにそう変わりがないことから、中央所属馬はダートグレード競走になかなか出走できないケースが散見されます。その反面、クラブの地方所属馬は後述する充実した外厩施設等を利用して、ダートグレード競走を始めとするトップクラスのレースをスムーズに目指すことができるのです。



[中央所属馬にはない地方所属馬だけの奨励金、褒賞金]



地方所属馬のメリットはダートグレード競走における出走枠の多さだけに留まりません。近年、各地方競馬場の賞金は増額されており、また、牝馬限定競走にスポットをあてた世代別牝馬重賞シリーズ(グランダム・ジャパンシリーズ)の存在も魅力のひとつです。さらには下記のとおり、地方所属馬がダートグレード競走で上位入線を果たした際、本賞金とは別に地方所属馬を対象とした出走奨励金や褒賞金を用意されているなど、中央所属馬にはない厚遇を受けることができます。

主な出走奨励金・褒賞金

ダートグレード競走褒賞金

最大800万円

ダートグレード競走褒賞金

- 対象競走：地方競馬で行われる全てのダートグレード競走。牝馬限定戦は最先着馬に次ぐ先着馬(4～5着以内)にもその半額を支給。
- 支給対象：G1/Jpn1競走：5着以内の地方最先着馬
Jpn2/3競走：4着以内の地方最先着馬
- 支給額：3歳/古馬競走 ⇒800万円
2歳Jpn1競走 ⇒560万円
2歳Jpn2/3競走 ⇒400万円

3歳競走地方所属馬付加賞金

最大1,000万円

3歳競走地方所属馬付加賞金

- 対象競走：3歳ダート三冠競走、兵庫チャンピオンシップ及び関東オークス、マリーンC
- 支給対象：1着から10着までの地方所属馬(3歳ダート三冠競走は10着まで、兵庫チャンピオンシップ及び関東オークス、マリーンCは8着まで)
- 支給額：1着から4着⇒1着本賞金の10%、5・6着⇒1着本賞金の5%、
7着⇒1着本賞金の4%、8着⇒1着本賞金の3%、9着⇒1着本賞金の2%、
10着⇒1着本賞金の1%

参考例：川崎記念優勝時のライトウォーリア号

1着賞金

1億円

+

ダートグレード競走褒賞金

800万円

+

ダートグレード競走優先馬出走奨励金
(トライアル競走を優勝した選出馬の馬主)

200万円

ダートグレード出走促進奨励金
(ダートグレード競走に出走した川崎所属馬の馬主)

50万円

1着賞金とは別に、地方所属のライトウォーリア号には合計1,050万円の手厚い褒賞金、奨励金がありました。

前ページでご紹介したダートグレード競走褒賞金や3歳競走地方所属馬付加賞金だけでなく、あらゆるジャンルに対する出走奨励金や褒賞金がNARや全国の各競馬主催者の協力により、年々充実してきています。クラブはこれらの制度を積極的に活用することでダートグレード競走や海外競走へのチャレンジを実現のものとし、クラブライフのさらなる充実を目指していきます。

■ 出走奨励金・褒賞金等について

優良2歳馬導入促進事業 対象▶2歳 新馬競走等の1～5着馬に最大80万円の付加賞金を交付。	最大 80万円
NAR2歳牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業 対象▶2歳 2歳牝馬限定競走の1着馬に最大40万円を交付。	最大 40万円
強化指定馬制度 対象▶3歳 優秀な成績を残した「強化指定馬」に対し、坂路やトレッドミル等を備えた調教・育成施設を利用した場合の利用料・預託料(治療費・装蹄費含む)、および国内外の重賞競走等に出走した場合の輸送費として、最大100万円を交付。	最大 100万円
ダートグレード競走褒賞金 拡充 対象▶2歳・3歳・古馬 地方最先行馬(4～5着以内)に最大800万円を交付。牝馬限定戦については、最先行馬に次ぐ先着馬(4～5着以内)にもその半額を支給。	最大 800万円
ダートグレード競走遠征奨励金 拡充 対象▶2歳・3歳・古馬 1年以内にレーティングを獲得した馬が他地区に遠征した場合、最大80万円を交付。	最大 80万円
2歳ダートグレード競走出走奨励金・褒賞金 対象▶2歳 ネクストスター等の未来優駿シリーズ競走優勝馬が2歳ダートグレード競走出走した場合100万円(出走奨励金)を、かつ地方最先行(5着以内)となった場合、500万円(褒賞金)を交付。	最大 500万円
JBC出走奨励金 対象▶3歳・古馬 Road to JBC地方最先行馬(3着以内)が同年のJBC競走出走した場合、100万円を交付。	100万円
3歳競走地方所属馬付加賞金 拡充 対象▶3歳 3歳ダート三冠競走(羽田盃、東京ダービー、ジャパンダートクラシック)、兵庫チャンピオンシップ、関東オークスおよびマリーンカップにおける1着から最大10着までの地方所属馬に1着本賞金の10%～1%を交付。	最大 1,000万円
国際競走優勝馬褒賞金 拡充 対象▶2歳・3歳・古馬 過去1年以内の日本国内のダートで行われるG1競走、もしくは日本国外で実施される国際セリ名簿基準書の定めるPart I のG1・2・3競走の1着馬が、地方競馬で行われるG/Jpn I 競走で4着以内となった場合、最大3,000万円を交付。	最大 3,000万円
3歳短距離競走褒賞金 拡充 対象▶3歳 3歳ネクストスター競走の1着馬が、兵庫チャンピオンシップで4着以内かつ地方最先行となった場合、500万円を交付。	500万円
海外競走出走奨励金 対象▶2歳・3歳・古馬 ダートグレード競走およびJRA重賞競走で1着となった地方所属馬、もしくは100以上のレーティングを有する地方所属馬が海外で実施される国際セリ名簿基準書の定めるPart I の国際格付競走出走した場合、1競走につき最大500万円を交付。	最大 500万円
海外競走褒賞金 対象▶2歳・3歳・古馬 海外で実施される国際セリ名簿基準書の定めるPart I の国際格付競走出走で1着となった地方所属馬に対し、最大3,000万円を交付。	最大 3,000万円
G/Jpn1 グランドボーナス 対象▶2歳・3歳・古馬 地方競馬で行われるG/Jpn1競走出走した地方所属馬にポイントを付与し、年間順位に応じて褒賞金を支給。	最大 2,000万円

レース体系

南関東4競馬場における新たな格付制度

南関東では分かりやすい番組編成を目指し、令和6年1月1日から新たな格付制度(格付ポイント制)が導入されました。
南関東所属馬は下表の統一されたポイントで格付が決定されます。これによって各場で異なっていた昇格するまでのスピードが統一されるだけでなく、南関東士での交流時に編成される組が異なっていた状況の改善が見込まれます。

旧	新格付制度(格付ポイント表)							
	競走種類			番組ポイント				
各競馬場が定める番組賞金				1着	2着	3着	4着	5着
	重賞競走	2歳競走	Jpn1	2,000	700	400	200	100
			Jpn2・S1	1,500	525	300	150	75
			Jpn3・S2(牝S1)	1,200	420	240	120	60
			S3(牝S2)	1,000	350	200	100	50
			牝S3	840	294	168	84	42
		3歳競走	Jpn1	2,400	840	480	240	120
			Jpn2・S1	1,800	630	360	180	90
			Jpn3・S2(牝S1)	1,400	490	280	140	70
			S3(牝S2)	1,200	420	240	120	60
			牝S3	1,000	350	200	100	50
	準重賞競走	3(4)歳競走	※G1・Jpn1	5,000	1,750	1,000	500	250
			Jpn2・S1	3,100	1,085	620	310	155
			Jpn3・S2(牝S1)	2,600	910	520	260	130
			S3(牝S2)	2,100	735	420	210	105
			牝S3	1,600	560	320	160	80
		格付馬		700	252	154	91	63
		2・3歳競走		600	216	132	78	54
	特別競走	A1		600	240	150	90	60
		A2		500	200	125	75	50
		B1		320	128	80	48	32
		B2		280	112	70	42	28
		B3		240	96	60	36	24
		C1		200	80	50	30	20
		C2		180	72	45	27	18
		C3		140	56	35	21	14
		3歳		280	112	70	42	28
		2歳		320	128	80	48	32
	普通競走	A1		—	—	—	—	—
		A2		320	128	80	48	32
		B1		280	112	70	42	28
		B2		240	96	60	36	24
		B3		200	80	50	30	20
		C1		150	60	38	23	15
		C2		100	40	25	15	10
		C3		80	32	20	12	8
		3歳競走	(1~6月)	220	88	55	33	22
			(7~12月)	160	64	40	24	16
		2歳競走	既出走馬	250	100	63	38	25
			新馬	280	112	70	42	28

※G1については、地方主催レース。

格付時期

格付は3歳になってから開始されます。下表は格付される時期を表しています。
まず、2月にA1の基準に達している馬のみが格付されます。続いて3月にはA2の基準、4月にはB1の基準に達している馬が順に格付され、最後に4歳1月にC3の基準に達している馬が格付されます。1月以降は全ての4歳以上馬がA1~C3のいずれかに格付されます。

年齢	3歳							4歳
月	2	3	4	5	6	7	10	1
格	A1	A2	B1	B2	B3	C1	C2	C3

維持費・出走回数

地方競馬は中央競馬に比べると賞金が低いと思われる方も多いかと思いますが、重賞競走やJRA認定競走は高額な賞金が用意されています。その他の競走の賞金は中央競馬ほどでないことは事実ですが、中央競馬よりも細分化された格付・組分けや開催日数の多さから出走数を十分に確保することができます。また中央競馬と比べて厩舎預託料は安価(南関東:約30~60万円、ホッカイドウ競馬:約20~50万円)に設定されています。

■認定厩舎制度

～地方所属馬の躍進に欠かせない存在、ミッドウェイファーム～

ミッドウェイファームとは？

1998年に設立。茨城県行方市に位置しており、冬は比較的温暖で雪が積もることはほぼなく、夏は浜風が吹き抜ける過ごしやすい気候で、競走馬を調整するうえで適した環境です。南関東4競馬場における認定外厩としてレース前の調整、レース後のリフレッシュなど、主に現役馬の調教を行っています。近年では川崎記念を制したライトウォーリアや兵庫ゴールドトロフィーを制したフォーヴィスム、スパーキングレディーカップを勝利したフェブランシェなどのダートグレード競走勝ち馬のほか、ブライルード、ホーリーグレイルといった南関東重賞勝ち馬を育成しています。クラブ所属馬以外では、キャリアックアリード、キングストンボーイなど、様々なジャンルにおいて活躍馬を輩出しており、南関東競馬を語る上で欠かせない存在となっています。2024年以降、クラブ所属馬が地方競馬で獲得した14個の重賞タイトルのうち、ミッドウェイファームに所属する馬が実に11勝と、圧倒的な数字を誇っています。

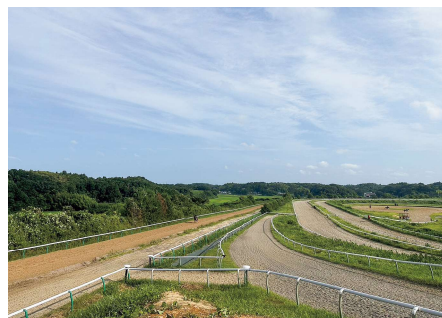
ミッドウェイファーム在厩馬が2024・NARグランプリ年度代表馬に選出

ダートグレード競走が整備され、開催時期が4月に移行された2024年の川崎記念(Jpn1)を制したライトウォーリアがクラブ所属馬、そしてノーザンファーム生産馬として初となるNARグランプリ年度代表馬に選出されました。2024年は年始の報知オールスターカップを制しただけでなく、秋にはクラブ地方所属馬として初となる海外遠征を敢行。韓国・コリアカップで4着入線を果たすなど、健闘を見せました。川崎所属馬としても初となる海外遠征ということで大いに注目を集めたことは記憶に新しいところです。昨年はライトウォーリア、フォーヴィスムがダートグレード競走を制覇。今年はフェブランシェがスパーキングレディーカップを制しており、中央所属馬と互角の勝負ができる環境が整っているのがミッドウェイファームと言えます。



【認定厩舎制度とは】

南関東4競馬場、およびホッカイドウ競馬では、馬房数の実質的拡大による出走頭数の確保を目的に、一定要件を満たしている民間育成牧場を認定厩舎として認定しています。本来であれば公正確保のため、原則的に出走を予定している開催10日前までに競馬場へ入厩する必要がありますが、この認定を受けることにより、レース当日の輸送で出走させることができるようになりました。この制度を活用することで、レース直前まで坂路コースを有する充実した環境で調整を行った上で、競馬へ向かうことが可能となります。なお、キャロットクラブの地方募集馬が認定厩舎制度を利用する際は、主にミッドウェイファームを利用しています。



～主な認定厩舎～

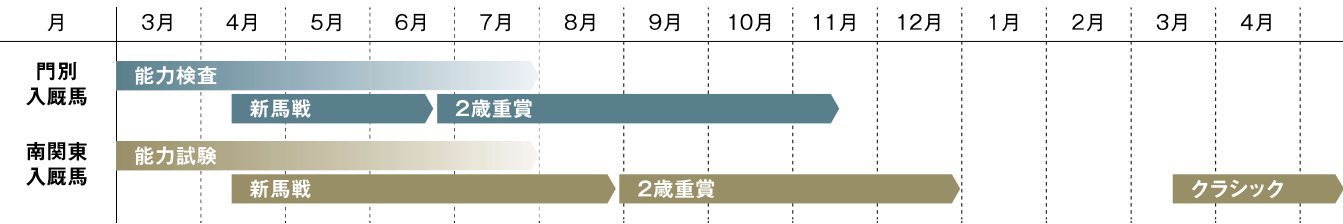
内田勝義（川崎競馬場）	藤田輝信（大井競馬場）
佐々木仁（川崎競馬場）	村上頼章（大井競馬場）
川島正一（船橋競馬場）	森下淳平（大井競馬場）
佐藤裕太（船橋競馬場）	渡邊和雄（大井競馬場）

～ミッドウェイファームの充実したトレーニング施設～

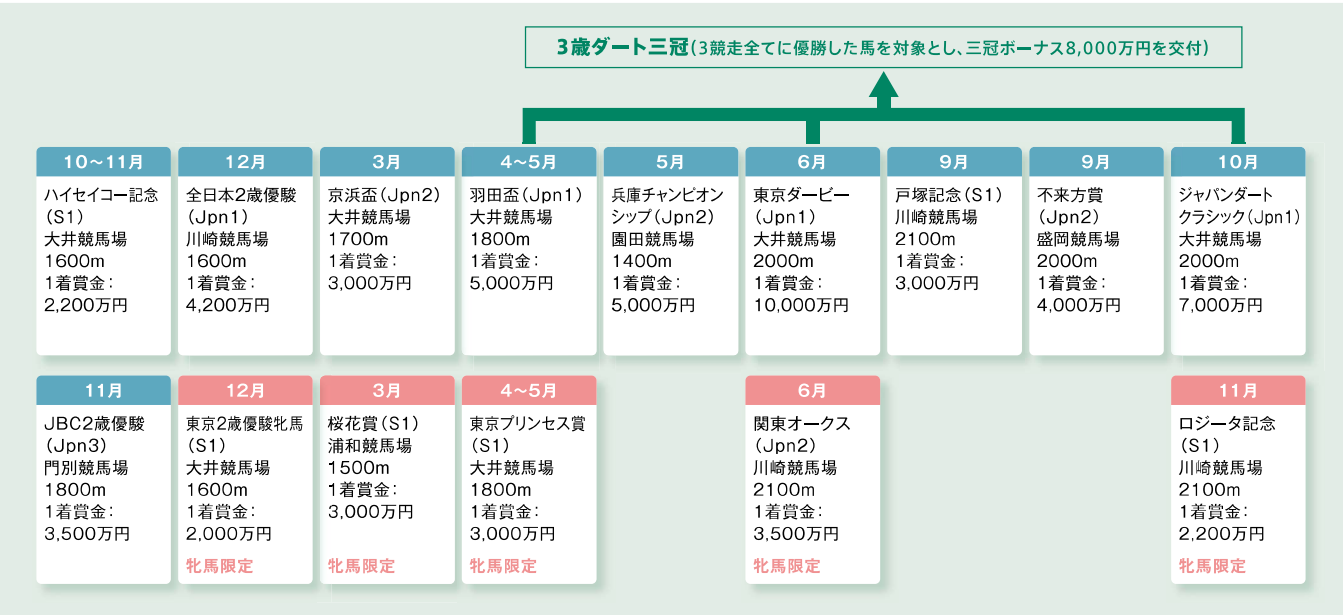
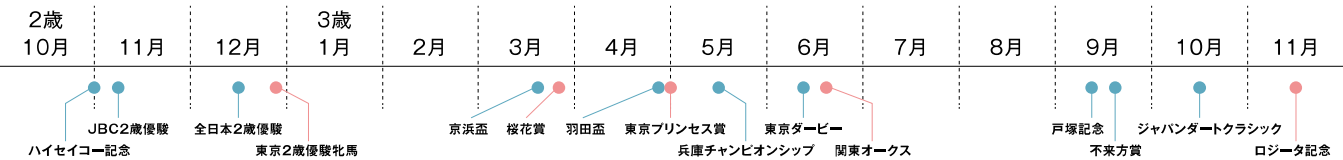
- ・屋外700m坂路コース(3.5パーセントの勾配部分は600m)
- ・屋外850m周回ダートコース(外馬場)
- ・屋外650m周回ダートコース(内馬場)
- ・角馬場
- ・ウォーキングマシン



開催スケジュール



主な2～3歳限定重賞競走



整備されたクラシックロード

新たに創設された3歳ダート三冠競走を筆頭に、魅力的な番組が多く整備されました。ダート適性が見込まれる馬にとって、これまで以上に地方を舞台に活躍できる下地が整ってきています。ここでは主な3歳馬限定競走をご紹介します。



			1着賞金
3月	浦和競馬場	桜花賞(S1)・1500m 牝馬限定	3,000万円
	大井競馬場	京浜盃(Jpn2)・1700m 初年度のJRA出走枠: 3頭	3,000万円
4月	大井競馬場	羽田盃(Jpn1)・1800m 初年度のJRA出走枠: 4頭	5,000万円
	大井競馬場	東京プリンセス賞(S1)・1800m 牝馬限定	3,000万円
5月	園田競馬場	兵庫チャンピオンシップ(Jpn2)・1400m	5,000万円
6月	大井競馬場	東京ダービー(Jpn1)・2000m 初年度のJRA出走枠: 4頭	10,000万円
	川崎競馬場	関東オークス(Jpn2)・2100m 牝馬限定	3,500万円
7月	大井競馬場	優駿スプリント(S2)・1200m	2,200万円
9月	盛岡競馬場	不來方賞(Jpn2)・2000m 初年度のJRA出走枠: 5頭	4,000万円
	川崎競馬場	戸塚記念(S1)・2100m	3,000万円
10月	大井競馬場	ジャパンダートクラシック(Jpn1)・2000m 初年度のJRA出走枠: 7頭	7,000万円
11月	川崎競馬場	ロジータ記念(S1)・2100m 牝馬限定	2,200万円

大井競馬場からサンタアニタダービー、そしてケンタッキーダービーへ

ここでは大井所属となった募集馬が目指すことができる、サンタアニタダービーポイントについてご紹介します。2023年のサンタアニタダービーで僅差の2着となったマンダリンヒーロー号の活躍は記憶に新しいところですが、本馬はこのポイント制度を利用して遠征を行いました。本制度は2019年から大井所属馬限定で設けられ、右表における獲得ポイントで基準を満たす馬が対象となります。選定馬が遠征する際は、輸送費や登録料を大井競馬場が負担するなど、徹底したサポートを受けることができます。日本における新たな三冠レースだけでなく、サンタアニタダービーでの結果如何では、アメリカの三冠競走を目指すことができるようになりました。

北米の伝統レース サンタアニタダービー(G1)出走権獲得のチャンス

■200ポイントを満たした馬、もしくはそれに匹敵すると認められる上位馬が選考対象

■遠征馬を最大2頭選定

※サンタアニタパーク競馬場との協議の結果によれば、ポイントを満たしていても遠征馬として選定されない場合があります。

サンタアニタダービーとは
サンタアニタダービーは、北米クラシックの重要ステップレースです。過去にアフームド号、サンデーサイレンス号、カリフォルニアクローム号が、このレースでの勝利を足がかりにクラシックウィナーとなるなど、由緒あるレースです。

主催	対象競走	ポイント(2025年)	
		1着	2着
TCK	2歳新馬競走	40	—
	2歳JRA指定競走(1800m戦)	40	—
	2歳JRA指定競走(1800m戦以外)	20	—
	上記を除く2歳競走(1800m戦以外)	10	—
	ゴールドジュニア(S3)	100	40
	ハイセイコー記念(S1)	150	60
	ジェムストーン賞(S3)	50	20
	セラフィナイト賞(準重賞)	80	30
南関東	雲取賞(Jpn3)	150	100
	南関東重賞競走(2・3歳)	50	20
全国	指定交流競走	Jpn1	200
		Jpn2	150
		Jpn3	100

※期間は2歳新馬戦の開始から雲取賞まで

上位入線で
ケンタッキーダービー(G1)
への道が開かれる！

古馬シーズンにおける番組の充実

地方競馬に在籍している馬たちにとって、古馬になってからの選択肢が多いことも魅力の一つに挙げられます。南関東限定重賞だけでなく、他地区の地方所属馬限定重賞へチャレンジできることに加え、全国各地で行われるダートグレード競走(Jpn1～Jpn3)に出走しやすい点は、中央所属馬と比較して、地方所属馬の大きな利点と言えます。ここでは各路線の主な競走をご紹介します。



			1着賞金
短距離路線	浦和競馬場	さきたま杯(Jpn1)・1400m	8,000万円
	船橋競馬場	習志野きらっとスプリント(S2)・1000m	2,100万円
	大井競馬場	東京盃(Jpn2)・1200m	4,000万円
	船橋競馬場	JBCスプリント(Jpn1)・1000m	8,000万円
	浦和競馬場	ゴールドカップ(S1)・1400m	3,100万円
マイル路線	船橋競馬場	京成盃ランドマイラーズ(S1)・1600m	3,100万円
	船橋競馬場	かしわ記念(Jpn1)・1600m	8,000万円
	川崎競馬場	スパーキングサマーカップ(S2)・1600m	2,100万円
	盛岡競馬場	マイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn1)・1600m	8,000万円
	大井競馬場	マイルグランプリ(S2)・1600m	2,500万円
中・長距離路線	大井競馬場	金盃(S2)・2600m	2,500万円
	船橋競馬場	ダイオライト記念(Jpn2)・2400m	4,500万円
	川崎競馬場	川崎記念(Jpn1)・2100m	10,000万円
	名古屋競馬場	名古屋グランプリ(Jpn2)・2100m	4,000万円
	大井競馬場	大井記念(S1)・2000m	3,200万円
	大井競馬場	帝王賞(Jpn1)・2000m	8,000万円
	大井競馬場	東京記念(S2)・2400m	3,000万円
	船橋競馬場	日本テレビ盃(Jpn2)・1800m	4,000万円
	船橋競馬場	JBCクラシック(Jpn1)・1800m	10,000万円
	浦和競馬場	浦和記念(Jpn2)・2000m	4,000万円
	大井競馬場	勝島王冠(S2)・1800m	2,500万円
	大井競馬場	東京大賞典(G1)・2000m	10,000万円

※S格は南関東限定重賞

各カテゴリーが充実した牝馬路線

地方競馬では全国で様々なカテゴリーの牝馬限定重賞が組まれており、世代別牝馬重賞シリーズ「GRANDAME-JAPAN(グランドダム・ジャパン)」は牝馬路線を語る上で外せないシリーズとなっています。なかでも古馬シーズンは2024年より春・秋の2シーズン制となり、1位のボーナス賞金は1,000万円を誇ります。



				1着賞金
古馬春シーズン	2月	船橋競馬場	クイーン賞・1800m	3,000万円
		笠松競馬場	ブルーリボンマイル・1600m	500万円
		高知競馬場	レジーナディンヴェルノ賞・1900m	800万円
	3月	名古屋競馬場	若草賞土古記念・1500m	800万円
	4月	園田競馬場	兵庫女王盃・1870m	3,000万円
古馬秋シーズン	5月	佐賀競馬場	佐賀ヴィーナスカップ・1750m	700万円
		川崎競馬場	エンプレス杯・2100m	4,000万円
	7月	川崎競馬場	スパーキングレディーカップ・1600m	3,000万円
		園田競馬場	兵庫サマークイーン賞・1700m	800万円
		門別競馬場	ノースクイーンカップ・1800m	600万円
	8月	金沢競馬場	読売レディス杯・1500m	400万円
		門別競馬場	ブリーダーズゴールドカップ・2000m	3,100万円
	9月	名古屋競馬場	秋桜賞・1700m	800万円
		盛岡競馬場	ビューチフルドリーマーカップ・2000m	600万円
	10月	大井競馬場	レディスプレリュード・1800m	4,000万円
	11月	船橋競馬場	JBCレディスクラシック・1800m	6,000万円